

J A 全農ちば

営農情報集 2023. 7

【今月の情報】

1. 水稻 当面の対策について
2. 園芸野菜 病虫害防除情報
3. 果樹（ナシ）病虫害防除情報
4. GAP 熱中症対策
5. 土壌診断で品質向上・施肥コストの最適化を

【今月の気象（気象庁 7/6 発表 1 か月予報より）】

7月は気温が平年よりも高くなる予報となっています。降水量は平年よりも低くなる予報となっているため、高温性病害や害虫防除の徹底などの対策を行いましょう。また、施設栽培では温度管理や高温対策にもご注意ください。

【気温】	10	30	60
【降水量】	40	30	30
【日照時間】	20	40	40

■ : 低い ■ : 平年並み ■ : 高い

注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

水稻・当面の対策について

～コシヒカリの穂肥、乳白防止・カドミウム抑制の水管理、本田防除～

J A全農ちば 営農支援部

1. はじめに

気温・日照ともに平年より高く推移しています。梅雨に入っていますが、降水量もやや少ないため、中干しには適した状況でありました。

4月20日植えのコシヒカリは6月22日頃から、5月1日植えのコシヒカリは6月28日頃に幼穂形成期を迎えています。

過繁茂状態の圃場は倒伏や品質低下を避けるため、穂肥の施用時期・量に注意しましょう。また、還元障害(ガス害・ワキ)が出やすい圃場は「根の活力維持」のためにも幼穂形成を確認するまではしっかり中干しを行いましょう。

2. コシヒカリの穂肥の施用について

穂肥の施用適期は出穂前18日～10日（幼穂形成期7日～15日後・幼穂長1cm～8cm）で、施用量の目安は10a当たり窒素と加里を各3kgです。施用時期が早いと倒伏や粳数過剰による登熟不足や玄米の外観品質低下を招き、遅い穂肥は玄米中の粗タンパク質含有率が高くなり食味低下につながります。生育を確認し、茎数の多い圃場や葉色の濃い圃場では、施用量を減らして対応しましょう。

表1：コシヒカリ幼穂形成期予測と穂肥施用適期の目安

植付時期		県北	九十九里	内湾	県南
4月20日	幼穂形成期予測	6/25	6/22	6/21	6/21
	穂肥目安	7/2～ 7/10	6/29～ 7/7	6/28～ 7/6	6/28～ 7/6
5月1日	幼穂形成期予測	7/1	6/28	6/27	6/27
	穂肥目安	7/8～ 7/16	7/5～ 7/13	7/4～ 7/12	7/4～ 7/12

出典：千葉県 水稻の生育状況と当面の対策第4報（令和5年6月28日号）より

3. 乳白米防止とカドミウム吸収抑制のために水管理の徹底を！

乳白米と自然由来のカドミウム吸収を抑えるため、幼穂を確認したら入水し、出穂3週間前～出穂2週間後まで（計5週間）は湛水状態を保ち、収穫直前の出穂後25日頃まで間断かんがいを続け、早期落水は避けましょう。

乳白米は天候や生育量、肥培管理など様々な要因により発生します。特に登熟期の水不足は乳白米等の多発生につながるので湛水管理をしっかりと行い品質の低下を防ぎましょう。

4. 斑点米カメムシ類対策について

「ふさおとめ」や「ふさこがね」などの早生品種は、まもなく出穂期を迎えます。出穂後に斑点米カメムシ類が周辺の雑草地などから圃場内に飛び込んできますので、特に注意が必要です。

(1) 雑草防除

圃場周辺の畦畔や休耕田などの雑草地は、カメムシの発生源になるため、雑草防除は効果的ですが、出穂前後の草刈りはカメムシ類を圃場内に追い込むことになりますので、**出穂の2週間前まで**には圃場周辺の雑草を防除しましょう。

(2) 薬剤防除

有人・無人ヘリコプターによる防除を行っている場合でも圃場をよく観察し、必要に応じて追加防除を行ってください。

粉剤または粒剤を使用する場合、粒剤の方が農薬の飛散対策や使用者の労力負担軽減の面で有効的です。散布に当たっては、風向き等の気象状況を十分考慮して散布するようにしましょう。

表2: 斑点米カメムシ類対策薬剤防除の目安

出穂期	1回目散布(出穂期～穂揃期) 【成虫対象】	2回目散布(乳熟期～糊熟期) 【幼虫対象】
7月15日	7月15日～18日	7月29日～8月3日
7月20日	7月20日～23日	8月3日～8月8日
7月25日	7月25日～28日	8月8日～8月13日
7月30日	7月30日～8月2日	8月13日～8月18日
8月5日	8月5日～8月8日	8月19日～8月24日

※出穂期は、全体の40～50%が出穂した日、穂揃期は、全体の80～90%が出穂した日



表3: カメムシ類の主要防除薬剤

薬剤名	使用量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	備考
スタークル粒剤	3 kg	7 日前まで	3 回以内	出穂期～穂揃期に湛水状態で散布 水深は3～5cmが効果を最大発揮
スタークル豆つぶ	250g			
キラップ粒剤	3 kg	14 日前まで	2 回以内	出穂 10 日前～出穂期に湛水状態で散布
トレボン粉剤DL	3～4 kg	7 日前まで	3 回以内	

5. 本田病害対策について

(1) いもち病

- ・感染に好適な条件は、平均気温 16～25℃で、イネが雨や露で濡れている状態が続くと発生しやすくなります。
- ・蒸れやすい状態（補植用の苗など）や窒素過多でも助長されます。圃場をよく観察し発生に注意し、初期防除に努めましょう。



(2) 紋枯病

- ・水田に落ちた菌核が越冬し、代かき時に水面に浮上、イネの株元に付着し、伝染します。
- ・高温多湿条件で発生が多く、過繁茂（茎数増加）は発病を助長するので注意しましょう。
- ・本病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。
- ・薬剤での防除適期は出穂前20日～15日頃。発病率が高い（株15%以上）場合は、出穂期にも追加防除を行いましょう。



表4：主な防除薬剤（殺菌剤）

薬 剤 名	使用量 (10a)	適用病害	使用時期 (収穫前日数)	備考
オリブライト1キロ粒剤	1 kg	いもち 紋枯	出穂 10 日前まで (但し、収穫 45 日前まで)	予防・治療
オリブライト 250G（豆つぶ）	250g			
ダブルカット粉剤 3 DL	3～4kg	いもち	穂揃期まで	予防・治療
モンガリット粒剤	3～4 kg	紋枯 稻こうじ	収穫 45 日前	予防・治療
フジワンモンカット粒剤	3～4 kg	いもち 紋枯	30 日前まで (出穂 30～10 日前まで)	予防
バリダシン液剤 5	1000 倍	紋枯	1 4 日前まで	治療
ブラシン粉剤 DL	3～4 kg	いもち	7 日前まで	予防・治療

園芸野菜 病害虫防除情報

J A全農ちば 営農支援部

1. はじめに

これから、果菜類の抑制栽培や秋冬作の作付準備の時期を迎えます。晴天が続き気温が高くなる予報ですので、施設栽培では温度管理に、露地栽培では高温性病害に注意しましょう。

また、7月は施設栽培（トマト、キュウリ、ナス、イチゴ等）、露地栽培（秋冬ニンジン等）ともに土壌消毒の時期となります。下記、土壌消毒時のポイントを参考に適切に実施しましょう。

2. ネギ【白絹病・軟腐病】

白絹病も軟腐病も高温（30℃前後）と多湿が重なると発生しますが、降雨が無い場合でも灌水や土寄せで株元が蒸れると発生しやすくなります。灌水は早朝か夕方に、土寄せは片側ずつ行うなどの工夫が大切になります。



白絹病

（1）白絹病

地際に白いカビが発生し、その後ゴマ粒状の菌核が作られます。菌核は残さとともに土壌に残り、越冬します。土寄せに合わせて薬剤防除を行いましょう。

（2）軟腐病

細菌性病害で防除薬剤が限られます。地際がとろけるように腐敗し、悪臭が発生します。

○ネギ 白絹病：白・軟腐病：軟 防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数※	備考
白	29	フロンサイド粉剤	15kg/10a	土寄せ時但し 収穫 21 日前	2回以内	予防
	7	モンカット粒剤	4～6kg/10a	土寄せ時但し 収穫 30 日前	3回以内	予防
		モンカットフロアブル 40	2000 倍	収穫前日	2回以内	予防
		アフエットフロアブル	2000 倍	収穫前日	3回以内	予防・治療
	11	メジャーフロアブル	2000 倍	収穫前日	3回以内	予防・治療
軟	24・M1	カスミンボルドー※	1000 倍	収穫 14 日前	2回以内	予防・治療
	24・31	カセット水和剤※	1000 倍	収穫 14 日前	2回以内	
	31	スターナ水和剤※	2000 倍	収穫 7 日前	3回以内	
	31・M1	ナレート水和剤※	1000 倍	収穫 14 日前	3回以内	

※カスミンとカセットは同成分（カスガマイシン）を含むため合わせて2回まで、カセット・ナレート・スターナは同成分（オキシリニック酸）を含むため合わせて3回までのため、それぞれ総使用回数に注意。

3. イチゴ【炭そ病】

ランナーや葉柄の病斑に形成された胞子が雨や灌水の飛沫とともに飛散し、托葉の部分からクラウン部を侵します。頭上灌水は発病を助長しますので、灌水をする場合は底面吸収か株元にのみの灌水にとどめましょう。県内ではQoI剤（アミスターなど）の効果が低下しています。治療剤で有効な薬剤が少ないため、予防剤を主体に防除を行いましょう。



○イチゴ 炭そ病 防除薬剤

FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
M7	ベルコートフロアブル	1000 倍	育苗期(定植前)	5回以内	予防
M3	ペンコゼブ水和剤	600 倍	仮植栽培期 但し収穫 76 日前	6回以内	予防
	アントラコール顆粒水和剤	500 倍	仮植栽培期	6回以内	予防
M4	オーソサイド水和剤80	800 倍	収穫開始 14 日前	5回以内	予防
M1	キノンドーフロアブル	500～800 倍	育苗期	3回以内	予防
10+1	ゲッター水和剤	1000 倍	収穫開始 21 日前	3回以内	予防・治療

4. 土壌消毒時のポイント

＜土壌消毒剤の選択＞

薬剤により対象病害虫が異なりますので、圃場で発生している病害虫の状況に合った薬剤を選択しましょう。

○土壌消毒剤 効果の特徴

薬剤名	薬剤分類	センチュウ	病害	雑草種子
D—D剤(テロン・DC油剤)	D—D	◎	×	×
クロルピクリン (ドロクロール)	クロピク※	△	◎	×
ソイリーン	D—D クロピク※	◎	◎	×
ガスタード微粒剤 (バスアミド微粒剤)	MITC	○	○	○
ディ・トラペックス油剤	D—D MITC	◎	○	○

※クロルピクリン剤は被覆が必須です！

＜土壌消毒剤の使用＞

(1) 薬剤は土壌中でガス化するため、被覆を必ずしましょう

特に高温時はガス化が早いので、被覆を行わないとすぐにガスが抜けきってしまいます。事故防止や効果を高めるためにも、ポリエチレン等の資材（厚さ 0.03 mm 以上）による被覆を行いましょう。

(2) 土壌水分の目安は、土を手で握って割れ目ができるくらいにしましょう

(3) 圃場の衛生状態を維持しましょう（耕種的防除）

前作の残さはセンチュウ・土壌病害等の発生源となるので、収穫後にうない込まず、可能な限り圃場外へ持ち出しましょう。

果樹(ナシ)病害虫防除情報

J A全農ちば 営農支援部

1. はじめに

関東甲信地方では連日の気温高が続いております。気温が上昇すると害虫の急増が懸念されます。シンクイムシ等のチョウ目や、果樹カメムシ類、ハダニ類の発生状況をよく確認しましょう。また、引き続き黒星病の拡大には注意が必要です。油断せず、果実の黒星病防除も徹底しましょう。

2. 黒星病・輪紋病対策



【7月】黒星病、防除薬剤（輪紋病防除を含む）

7月上旬：ミギワ 20フロアブル※1	4,000倍（収穫前日／3回）
＋ベルコートフロアブル	1,500倍（収穫14日前／5回）
7月中旬：カナメフロアブル 【SDHI剤】※2	4,000倍（収穫前日／3回）
＋オーソサイド水和剤 80	1,000倍（収穫3日前／9回）

※1 ミギワ 20フロアブルの代わりにインダーフロアブル 10,000倍（収穫7日前／3回）、またはアンビルフロアブル 1,000倍（収穫7日前／3回）でもよい。

※2 カナメフロアブルの代わりにフルーツセイバー 1,500倍（収穫前日／3回）でもよい。また、輪紋病対策が必要な場合はパレードフロアブル 15 2,000倍（収穫前日／2回）でもよい。

収穫期：トップジンM水和剤（輪紋病対策） 1,500倍（収穫前日／6回）

- ・黒星病の感染適温は15～25℃です。気温が上昇すると黒星病は広がりにくくなります。防除期間終了の目安として、平年ではこの条件となるのは7月中下旬頃です。
- ・今後の防除において、収穫日数が短めの剤にはオーソサイド水和剤 80（3日前）や、下記の炭そ病対策のストロビードライフフロアブル（前日）があります。
- ・ベルコートフロアブル、オーソサイド水和剤 80 は予防に加え耐性菌発生対策のため使用します。
- ・オーソサイド水和剤 80 は果実汚れを生じる場合があるので、対策が必要な場合、展着剤まくぴか 10,000倍を加用しましょう。調合時は泡立ち防止のため最後に加えましょう。
- ・収穫期以降の炭そ病対策では、ストロビードライフフロアブル（2,000倍・収穫前日・3回以内）を散布します。特に台風が接近する場合は、事前に防除を行いましょう。

3. カメムシ類・シンクイムシ類 防災網の設置が不十分な園は特に注意！



カメムシ類・シンクイムシ類

7月上旬：テルスターフロアブル 3,000倍（収穫前日／2回）【カメシ・シンクイムシ対策】

7月下旬：サムコルフロアブル 10 5,000倍（収穫前日／3回）

【シンクイムシ対策・発生時の緊急防除にも使用】

収穫期：ロディー水和剤 1,000倍（収穫前日／2回）【カメシ・シンクイムシ対策】

【カメムシ類 多発生時】

7月下旬：アグロスリン水和剤 1,000倍（収穫前日／3回）

8月上旬：スタークル顆粒水溶剤 2,000倍（収穫前日／3回）

●カメムシ類防除のポイント

園内のカメムシ類の発生動向とあわせて防除を行いましょう。カメムシの移動範囲は広く、主な発生源は園周辺の各種樹木（主にヒノキ、スギなどの針葉樹）です。夜行性のカメムシ類は日没後2時間ほどしてから見られるため、薬剤防除は夕方に行いましょう。散布作業が始まると園外へ飛散しようとするため、地域でまとまって一斉防除することが理想的です。

4. ハダニ類

被害が目立つのは7月中下旬以降ですが、ハダニ類は梅雨明け後に気温が高くなると急増することがあります。防除遅れとならないよう、梅雨～梅雨明け直前ごろからダニゲッター・ダニコングによる防除を実施し、園内のハダニ類発生状況を確認しながら、必要に応じて薬剤散布時期を調整しましょう。

○ハダニ類防除薬剤

時期※	薬剤名	主な効果	登録内容
6月下旬	カネマイトフロアブル	殺卵・殺成虫	1000倍・収穫前日・1回
7月上旬	ダニゲッターフロアブル	殺卵	2000倍・収穫前日・1回
7月中旬	ダニコングフロアブル	殺卵・殺成虫	2000倍・収穫前日・1回
8月上旬～	マイトコーネフロアブル	殺卵・殺成虫	1000倍・収穫前日・1回

※注意：梅雨明け時期を平年とした場合の目安です。必要に応じて散布時期を早めましょう。

農作業事故のリスクを減らしましょう

～熱中症対策～

J A全農ちば 営農支援部

1. 熱中症について

一部地域では、梅雨明けの発表がされています。千葉県内も今後連日に渡って、気温が高くなることが予想されます。特に晴天時は、ハウス内の気温が上昇しやすく、夏場のビニールハウス内は40℃を超える場合もあります。そのため、夏場の作業を実施する場合はこまめな水分補給を実施し、熱中症や脱水症状の対策をしましょう。

2. 熱中症の症状

以下の症状が熱中症の代表的な症状です。これらの症状以外でも「暑い環境での体調不良」はすべて熱中症の可能性があります。

(1) めまい・吐き気
(2) 頭痛
(3) 手足のしびれ
(4) 汗が大量に出る・
汗が出なくなる



(5) 身体・頭が熱い
(6) まっすぐ歩けない
(7) 筋肉のこむら返り
(8) 意識障害

3. 熱中症対策

(1) こまめに**水分・塩分補給**をしましょう

汗をかくと体内の「塩分」や「ミネラル」も放出されます。スポーツドリンクのように「塩分」と「糖分」を一緒に摂ると体内への塩分吸収が良くなります。高齢者はのどの渇きや気温の上昇を感じづらく脱水しやすいため、こまめな水分・塩分補給が必要です。

(2) こまめに**休憩**を取りましょう

日陰等の涼しい場所で休憩し、作業着を緩め、手足を露出して体温を下げましょう。

(3) 2人以上で作業、もしくは携帯電話等で**すぐに助けを呼べる体制**をつくりましょう

熱中症で倒れてしまった場合、処置が遅れると死亡事故に繋がるリスクが高まります。緊急事態にすぐに気づいてもらう環境づくりが大切です。

(4) **暑さ指数**もチェックする

環境省から暑さの厳しさを示す指標が出ています。気温とともに参考にしましょう。

環境省：熱中症予防情報サイト：https://www.wbgt.env.go.jp/wbgt_data.php

4. 応急処置について

(1) 水分補給をしましょう！

経口補水液も有効です。水 1L に対して砂糖 40g、塩 3g で作れます。

(2) 体温を下げましょう！

首筋、わきの下、脚の付け根などを冷やすとより効果的です。

(3) 安静にして十分な休憩を取りましょう！

(4) 救急搬送をしましょう！

自力で水が飲めない場合や、意識が無い場合には**119番**で救急車を呼びましょう！

土壌診断で品質向上・施肥コストの最適化を

J A全農ちば 営農支援部

1. はじめに

近年、円安や肥料原料の価格高騰等を背景に肥料価格は高止まりしています。J A全農ちばでは、営農技術センター（成田市）にて土壌診断を実施し、作物の収量・品質の安定を図るために、圃場の養分状態の把握、適正施肥をすすめ、施肥コストの低減に取り組んでいます。

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
分析点数（点）	5,769	6,263	7,172	8,054

2. 土壌診断のメリット

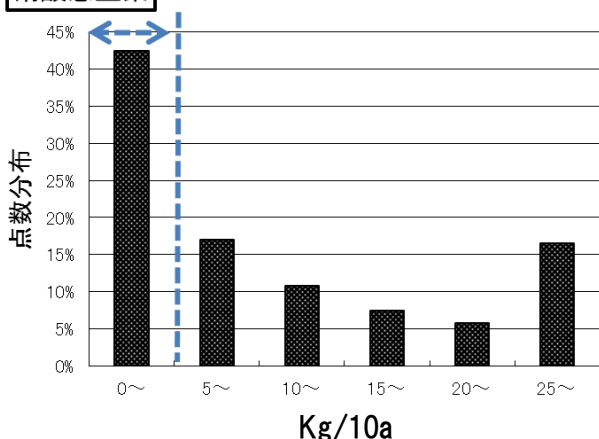
土壌診断は土の健康診断です。定期的の実施し、圃場状態を把握することには多くのメリットがあります。長年、土の養分状態を把握せず、施肥量を変えずに栽培していると圃場の養分バランスが崩れ、やがては農作物の生育に影響がみられるようになってきます。土壌中の肥料成分含有量を数字で把握することで、圃場にあった適切な施肥を行えます。また、品質向上や施肥コストを見直すことにも繋がります。

3. 土壌診断結果の活用

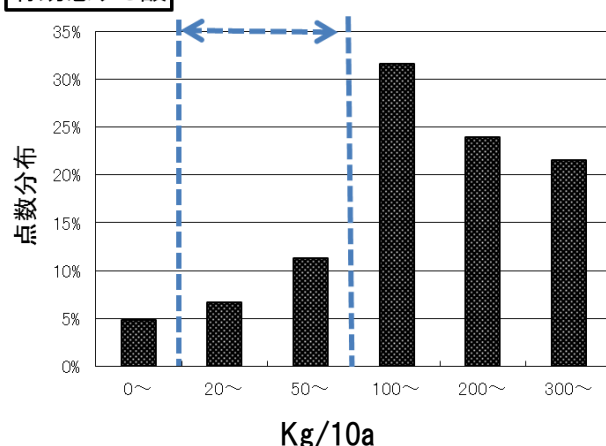
特に施設土壌において、肥料成分が過剰な傾向にあります(グラフ 1)。主な理由としては「施設栽培では降雨による養分流出がないため、土壌中に蓄積していくこと」などです。また、たい肥を長年施用した圃場でも見られます。たい肥には窒素成分だけではなく、リン酸と加里も多く含まれています。過剰な養分は作物の生育に悪影響を及ぼす場合があります。

土壌診断の結果を活用して、過剰となっている施肥量を適正にすることで、肥料コストの低減や作物の品質向上につなげましょう。

硝酸態窒素



有効態りん酸



グラフ1. 令和3年度千葉県トマト

土壌分析傾向(点数：417点、平均 CEC＝30)

千葉県内トマトの窒素・リン酸分析傾向。青い矢印が基準値を表しています。窒素・リン酸ともに半数以上の圃場で基準値を超えた肥料成分が残っています。

土壌診断の申し込みは最寄りの JA まで！！！！